



結果という唯一の評価

令和7年10月26日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これは企業や政治において自己を問われるものは現実を与えることにおいてである。それは結果を与えることが唯一の評価であることを意味する。

これら現実責任と権限、能力において各リーダーの選出を求め、企業や政治における自己現実を求めることが唯一存在するのである。

他方においては結果を失うことが存在し、それらは一切が否定される。

これらは、正しい評価であり、競争原理の元政治や企業が自己を有する限り、それを否定する事は不可能である。

これら正しいリーダーの資質は、未来の実現を与えるものである。

これらは結果責任を各リーダーが自己の現実においてその達成を必達の要求として有するものであり、有能な人材はこれを行う存在なのである。

これらは業務への理解において可能であり、それら人材の育成は政治や企業において未来を与える正しい選択なのである。

これら厳しさは正しい現実の育成を与える。政治や企業がぬるま湯に浸かり未来を実現できない理由はそれを得ないからである。

これらが政治や企業における正しい秩序であり、それら厳しさが自己の永続を求める基盤なのである。

これらは競争を得ないことと、競争を得ることの相違であり、グローバリズムという潮流は競争原理における勝者が世界の所有を求めるものなのである。

これら現実への参加が未来であるならば、政治や企業において選択は存在しないのである。